平成24年11月15日

会長　宮本和彦（文京学院大学）

　「創造的教育＝福祉＝人間学会」　CHEWS

　　　　　　　　１２月の研究報告会のお知らせ

日時：１２月２日（日）　１４時～１８時

　場所：昭和女子大学　（会場）２号館東棟５階５s４３教室

　　　　　　　　　　　（会員控室）　３階３s４１教室

　　　　　　　　　　〒154-8533　東京都世田谷区太子堂1-7-57

　　　　　　　　　　TEL：03-3411-5123　　FAX：03-3487-6850

アクセス方法

 地下鉄：東急田園都市線（半蔵門線直通）「三軒茶屋」駅下車　徒歩7分

 バス：渋谷駅から下記方面行きを利用し、「昭和女子大」下車（上町・等々力・調布・弦巻営業所・二子玉川・高津営業所・成城学園・祖師谷大蔵・狛江・調布）

 目黒駅・祐天寺駅から三軒茶屋行きを利用し、「三軒茶屋」下車

 下北沢駅から駒沢陸橋行きを利用し、「三軒茶屋」下車

　理事会　　13時　～　13時40分　　　　　　　　　　　場所　３s４１教室

研究報告　１４時～１５時４５分

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　毛利康秀（日本大学）

1. 佐藤賢一郎（つくば市　公立保育所保育士）

「保育における同僚性」向上へのプロセス　―フリー保育士と担任保育士との会話に注目して―

1. 湯浅阿貴子（昭和女子大学）・江島絵理子（横浜創英大学）

　５歳児の協同活動にみられる相互交渉の比較検討　―ゲーム遊び経験の差による分析－

1. 黒須伸之（日本大学　足立高校　）

　コンヴィヴィアル（生き生きとした共生、自立共生）な生活空間の条件

－コミュニティの『調和』の研究　　―

　休憩　　　１５時４５分～１６時

　　　　　≪　休憩時間　アンサンブル演奏　　Verk Saxophone Quartet　≫

　特別講演　１６時～１７時３０分

司会　坂口克彦（豊多摩高等学校）

1. 庭野優子（元公立小学校主幹教諭）

「教師のライフコース」

1. 三浦守（国際柔道指導者）

　　「柔道指導を通して見たインド・東南アジア」

　　講演者の紹介

庭野優子先生について

３３年間にわたって小学校教諭を務め、主に道徳教育についての研究を続け、今年3月に退職された。その教育に関する知見からは学ぶこと大きい。現在、文京区立関口台町小学校にて講師を務める。平成３年度　東京都小学校教育開発委員（道徳）、・平成５年度文部省道徳指導資料作成委員、平成８年度文部省海外派遣東京都第１３２団、平成１４年度文部科学省「心のノート」活用事例集作成委員、江戸川区授業力アップ検討委員初任者研修担当、東京都認定講師（道徳、平成１８年～２４年）、２１年度国立教育政策研究所開発委員、２２．２３年度都人権プログラム委員。

授業実践の掲載としては、月刊誌「道徳と特別活動」（文溪堂）、月刊誌「児童心理」（金子書房）、月刊誌「道徳教育」（明治図書）、教育技術ＭＯＯＫ「道徳の授業」（小学館）など。また共著では「学級・学校での話のネタ３６５日」（文教書院）、「一日一話　学校講話実例３６５」（教育開発研究所）などがある。

新しい道徳教育を考える会幹事、日本道徳教育学会会員、全国小学校道徳教育研究会ＯＢ会員、東京都小学校道徳教育研究会ＯＢ会員、モラロジー東京江戸川教育者研究会総務、創造的教育＝福祉＝人間学会評議員、毎日小学生新聞編集アドバイザー、文溪堂道徳副読本編集委員。１９年度江戸川区授業の達人（道徳）、２０年度東京都職員表彰、２１年度文部科学大臣表彰。

　三浦守先生について　（国際柔道指導者）

　インドを旅行中にたまたまインドの柔道チャンピオンという人物と試合をすることになり、その試合に勝ってしまう。集まっていた人たちから土下座をされて指導を乞われることになり、その情報はインドの行く先々に伝わっており柔道を教えることになる。以来、インドを中心として南、東南アジア地域の柔道指導者として活躍することになる。「喧嘩騒ぎの柔道」から、まず礼儀作法を教えなければならないスタートであった。指導費を決してもらわないことがモットーであり、そのことが三浦の信望をさらに高めている。情熱と使命感、行動力で日本文化をアジアに伝授する国際教育者としての人物像が感じられる。

　主著「黒帯、インドを行く」木犀社（1995年）、マスコミ出演は、ＮＨＫ特集番組放映等。

☆　休憩時間のアンサンブル演奏　☆

“フェルク・サクソフォーンカルテット”（Verk Saxophone Quartet）の紹介

メンバー　：塚田 光(Soprano Saxophone)、齋藤 友紀(Alto Saxophone)、

嶋田 結花(Tenor Saxophone)、竹本 綾大(Baritone Saxophone)

「フェルク」とは、ドイツ語の「フェルクレールトゥ」という音楽用語を略したもので、意味は「輝きに満ちた」です。いつまでもくすむことなく、演奏できる喜びを忘れず、心に響く音楽を目標としている。招待演奏などの活動の他、新委嘱作品を積極的に行い、フェルクのレパートリー拡大に力を入れている。（委嘱作品　下中拓哉「Vento sopra」「Vento tranquilo」「Vento fresco」2012年、　下田和輝「Into the Deep Blue～青の中へ～」2012年等。）